

## 2 小麦

### (1) 国際的な小麦需給の概要

#### ○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、今後の天候が平年並みに推移すれば、昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復し、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締まりは緩和すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、米国等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より60.3百万トン増加（9.9%）し、670.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で6.5百万トン上方修正されており、国別にはロシア、インド、EU等が良好な天候等を反映して上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、中国等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より27.7百万トン増加（4.5%）し、649.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.6百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシア等が上方修正され、米国、インド等で下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、7.3百万トン増加（6.4%）し、121.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではカナダ、オーストラリア等で輸出量の増加が、昨年、輸出量が急増した米国で減少が見込まれている。一方、輸入国では、アルゼンチア、エジプト等で輸入量の増加が、EU等で減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.8百万トン上方修正されており、国別にはロシア、ウクライナ、カナダの輸出量が上方修正され、アルゼンチン、EUの輸出量、ブラジルの輸入量が下方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、オーストラリア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より21.0百万トン増加（18.2%）し、136.2百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も21.0%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.1百万トン上方修正されており、国別にはインド、米国が上方修正され、オーストラリア、EUで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>596.3</b>	<b>610.5</b>	<b>670.8</b>	<b>6.5</b>	<b>9.9</b>
EU-27	124.8	119.3	143.2	1.5	20.1
中国	108.5	109.9	114.0	-	3.8
インド	69.4	75.8	78.4	1.6	3.4
米国	49.3	56.2	67.0	0.0	19.1
ロシア	44.9	49.4	57.0	3.0	15.4
カナダ	25.3	20.1	25.0	0.5	24.7
オーストラリア	10.8	13.0	25.0	-	91.7
<b>消費量</b>	<b>616.9</b>	<b>622.1</b>	<b>649.8</b>	<b>2.6</b>	<b>4.5</b>
うち飼料用	105.8	97.1	119.8	2.1	23.3
EU-27	125.5	118.5	131.0	2.0	10.6
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.9	77.6	▲ 0.5	2.3
ロシア	36.4	38.2	40.0	1.0	4.7
米国	31.0	29.0	35.2	▲ 1.0	21.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	▲ 0.3	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	0.3	0.6
<b>貿易量</b>	<b>111.2</b>	<b>114.0</b>	<b>121.3</b>	<b>0.8</b>	<b>6.4</b>
(輸出)					
米国	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
カナダ	19.6	16.5	17.0	0.5	3.0
オーストラリア	8.7	7.5	15.0	-	100.8
EU-27	13.9	11.0	15.5	▲ 0.5	40.9
ロシア	10.8	12.0	13.5	1.0	12.5
アルゼンチン	10.5	10.0	8.5	▲ 1.0	▲ 15.0
ウクライナ	3.4	1.1	8.5	1.0	672.7
(輸入)					
エジプト	7.3	7.5	7.8	-	4.0
ブラジル	7.8	7.0	7.0	▲ 0.3	0.0
アルジェリア	4.9	5.2	5.6	-	7.7
インドネシア	5.6	5.3	5.6	-	5.7
日本	5.7	5.5	5.5	-	0.0
EU-27	5.1	6.5	5.0	-	▲ 23.1
モロッコ	1.8	4.7	4.0	-	▲ 14.9
<b>期末在庫量</b>	<b>126.7</b>	<b>115.2</b>	<b>136.2</b>	<b>3.1</b>	<b>18.2</b>
中国	38.5	41.7	46.7	-	12.1
米国	12.4	8.3	15.6	1.0	87.8
EU-27	14.0	10.3	12.0	▲ 0.2	16.2
オーストラリア	4.4	3.9	7.7	▲ 0.5	100.0
インド	4.5	6.4	7.2	2.0	11.7
ロシア	2.4	2.6	6.6	0.5	155.0
カナダ	6.8	3.7	4.3	-	16.0
<b>期末在庫率</b>	<b>20.5%</b>	<b>18.5%</b>	<b>21.0%</b>	<b>0.4</b>	<b>2.4</b>

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

## (2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、前年度より10.8百万トン増加（19.1%）し、67.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より6.2百万トン増加（21.4%）し、35.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲20.9%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、7.3百万トン増加（87.8%）と大幅に積み増しされ、15.6百万トンとなり、期末在庫率も25.0%（11.9ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正を受け、生産量がわずかに上方修正されている。また、飼料用需要が1.0百万トン下方修正されている。これに伴い、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

米国の冬小麦は収穫を終え、作柄については、優良が10%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では76%と前年度の最終の75%を上回っている。

春小麦の収穫率は61%となっており、過去5年の平均に比べ11ポイント（前年に比べ22ポイント）と、大幅に遅れている。生育期に気温が低かったため成熟が遅れており、その結果収穫の進捗に影響が出ている。

作柄については、優良が14%と前年同時期と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）  
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度10.0%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.4%）

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.3	56.2	67.0	0.0	19.1
消費量	31.0	29.0	35.2	▲1.0	21.4
うち飼料用	3.3	0.8	6.8	▲1.0	739.5
輸出量	24.7	34.4	27.2	-	▲20.9
輸入量	3.3	3.1	2.7	-	▲11.4
期末在庫量	12.4	8.3	15.6	1.0	87.8
期末在庫率	22.3%	13.1%	25.0%	2.0	11.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.90	-	10.9
単収(t/ha)	2.60	2.72	2.93	0.01	7.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

#### ○ 米國小麦の生育進捗状況及び作柄（8月24日現在）

[生育進捗状況（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）]

春小麦 収穫率 61%（平年差：▲11p、前年差：▲22p）

[作柄（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）]

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2008/09	10	36	30	14	10
	前年度同時期	14	34	27	16	9
	前年度最終	12	35	28	15	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	...	...	...	...	...
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor  
資料：USDA「Crop Progress」ただし、冬小麦の作柄については6月22日報告のデータ。また、8月24日現在のデータに春小麦の前年同時期の情報は含まれていない。  
注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

## イ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より4.9百万トン増加(24.7%)し、25.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.7百万トン増加(10.0%)し、7.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン増加(3.0%)し、17.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加(16.0%)し、4.3百万トンとなり、期末在庫率も17.6%(1.7ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.5百万トン上方修正されている。生産量の増加に伴い、輸出可能な小麦の量が增大するため、輸出量も0.5百万トン上方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

7月は、気温が低く雨が続いたため、プレーリー地域で春小麦の生育が遅れている。例年、8月末から9月初旬にかけて霜が下ることがあり、生育が遅れた2008/09年度は、早霜の影響が懸念されている。今後も主要産地の天候に注視が必要である。

また、8月から冬小麦の収穫が始まり、9月末にかけて収穫が行われる。7月の気温が低かったことなどから、生育が2～3週間遅れており、早霜による品質への影響について注視が必要である。

## ウ オーストラリア

### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、前年度より12.0百万トン増加(91.7%)し、25.0百万トンとなる見込みである。収穫面積が、降水量の増大、小麦価格の高騰による生産意欲増大、前年度の牧草地からの転換分などから過去最大を見込んでいる。

消費量は、ほぼ前年度並の6.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から7.5百万トン増加(100.8%)し、15.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.8百万トン増加(100.0%)し、7.7百万トンとなり、期末在庫率も36.6%(8.2ポイント増)まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸出量が0.5百万トン上方修正されたため、2008/09年度の期首在庫量と期末在庫量も0.5百万トン下方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

6月末から7月にかけて降水量が減少し、7月の最終週には降雨があったものの、土壌水分が生育に十分な量とはなっていない状況の中で、現状の予測は、今後の十分な降雨があることを前提として維持されており、引き続き天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース21.5%)  
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 3.7%)  
輸出量シェア 2位 (2008/09年度14.0%)

表-3 カナダの小麦需給(市場年度: 8月～翌年7月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	25.0 (25.1)	0.5	24.7
消費量	8.7	7.0	7.7 (8.2)	-	10.0
うち飼料用	4.3	3.0	3.0 (3.8)	-	0.0
輸出量	19.6	16.5	17.0 (16.4)	0.5	3.0
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 14.3
期末在庫量	6.8	3.7	4.3 (4.6)	-	16.0
期末在庫率	24.1%	16.0%	17.6% (18.5%)	▲ 0.4	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.00 (10.05)	-	15.7
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.50 (2.50)	0.05	7.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (August 1, 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース18.0%)  
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 3.7%)  
輸出量シェア 4位 (2008/09年度12.4%)

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度: 10月～翌年9月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.0	25.0 (23.7)	-	91.7
消費量	7.4	6.2	6.2 (6.7)	-	0.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.5 (3.7)	-	0.0
輸出量	8.7	7.5	15.0 (16.3)	-	100.8
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.4	3.9	7.7 (…)	▲ 0.5	100.0
期末在庫率	27.3%	28.3%	36.6% (…)	▲ 2.2	8.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	14.00 (13.97)	-	13.4
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.79 (1.70)	-	68.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (June 2008)」

## エ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、価格高騰による作付け意欲の拡大や単収の増加などにより、前年度より23.9百万トン増加(20.1%)し、143.2百万トンとなる見込みである。これは2004/05年度に続き、過去2番目に大きな数値となっている。

消費量は、とうもろこし、ソルガム、大豆粕の価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より12.5百万トン増加(10.6%)し、131.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから4.5百万トン増加(40.9%)し、15.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.7百万トン増加(16.2%)し、12.0百万トンとなり、期末在庫率も8.2%(0.2ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、良好な天候に恵まれた地域が多く単収が上方修正されたことを受け、生産量が1.5百万トン上方修正されている。また、消費量は飼料用需要を中心に2.0百万トン上方修正された。輸出量は、ロシア、ウクライナとの競合が激しくなりつつあることから、0.5百万トン下方修正された。また、期末在庫量は0.2百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

収穫時期を迎えているが、フランス、ドイツ、イギリスでは雨により収穫が停滞し、小麦の品質に影響が出る可能性がある。

## オ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収の増加が見込まれ、前年度より4.1百万トン増加(3.8%)し、114.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、5.0百万トン増加(12.1%)し、46.7百万トンとなり、期末在庫率も42.9%(3.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われてない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

中国における小麦の収穫は順調に終了した。

### 【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課している。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度21.3%)〕  
〔輸出量シェア3位(2008/09年度12.8%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.8	119.3	143.2 (141.6)	1.5	20.1
消費量	125.5	118.5	131.0 (128.7)	2.0	10.6
うち飼料用	60.2	53.2	65.0 (57.0)	2.0	22.2
輸出量	13.9	11.0	15.5 (16.2)	▲ 0.5	40.9
輸入量	5.1	6.5	5.0 (6.0)	-	▲ 23.1
期末在庫量	14.0	10.3	12.0 (13.0)	▲ 0.2	16.2
期末在庫率	10.0%	7.9%	8.2% (9.0%)	▲ 0.2	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.72	26.60 (…)	0.01	7.6
単収(t/ha)	5.10	4.82	5.38 (…)	0.12	11.6

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度17.0%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.9	114.0 (112.0)	-	3.8
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	2.0 (3.0)	-	▲ 28.6
輸入量	0.4	0.2	0.0 (0.1)	-	▲ 85.0
期末在庫量	38.5	41.7	46.7 (…)	-	12.1
期末在庫率	36.7%	39.1%	42.9% (…)	-	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.96	23.10	23.40 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.72	4.76	4.87 (…)	-	2.3

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」

## カ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.6百万トン増加（3.4%）し、過去最大の78.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.7百万トン増加（2.3%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度から2.0百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン上昇（11.7%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.2%（0.8ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と良好な天候を受けた単収の増大の影響を受け、生産量が1.6百万トン上方修正されている。消費量は0.5百万トン下方修正され、輸入量も0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は、2.0百万トン上方修正されて、前年度から減少する予測は、増加に転じた。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2007/08年度のインドにおける小麦の収穫は、4月～5月に順調に終了した。

### 【貿易情報】【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。

## キ ロシア

### 【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことなどから、前年度より7.6百万トン増加（15.4%）し、57.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.8百万トン増加（4.7%）し、40.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.5百万トン増加（12.5%）し、13.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.0百万トン増加（155.0%）し、6.6百万トンとなり、期末在庫率も12.3%（7.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と単収の上方修正を受け、生産量が3.0百万トン上方修正された。消費量は1.0百万トン上方修正されている。輸出量も、生産量増大等の影響から、1.0百万トン上方修正されている。この結果、期末在庫率は0.5百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

7月末までに、冬小麦の収穫はほぼ半分終了している。春小麦は、8月末から収穫が始まる。今後の天候に作柄が左右されることから、引き続き主要産地の天候に注視が必要である。

### 【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

## （世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.7%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.4 (78.4)	1.6	3.4
消費量	73.4	75.9	77.6 (…)	▲ 0.5	2.3
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	▲ 0.1	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸 入 量	6.7	2.0	0.0 (0.1)	▲ 0.1	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	2.0	11.7
期末在庫率	6.1%	8.4%	9.2% (…)	2.6	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.00 (…)	0.30	0.0
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.80 (…)	0.03	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」

## （世界の生産量シェア5位（2008/09年度 8.5%） 輸出量シェア5位（2008/09年度11.1%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	57.0 (52.0)	3.0	15.4
消費量	36.4	38.2	40.0 (…)	1.0	4.7
うち飼料用	14.1	15.4	16.5 (…)	0.5	7.1
輸 出 量	10.8	12.0	13.5 (12.5)	1.0	12.5
輸 入 量	0.9	1.0	0.5 (0.6)	▲ 0.5	▲ 50.0
期末在庫量	2.4	2.6	6.6 (…)	0.5	155.0
期末在庫率	5.0%	5.1%	12.3% (…)	0.5	7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.10 (…)	0.60	6.5
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.18 (…)	0.06	7.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」

## ク アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少などから前年度より2.5百万トン減少（▲15.6%）し、13.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから1.5百万トン減少（▲15.0%）し、8.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲53.4%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率も2.9%（2.8ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収が上方修正されたものの、作付時期に乾燥した天候が続いたことから収穫面積が下方修正された影響を受け、生産量が1.0百万トン下方修正されている。また、生産量の修正に伴い、輸出量も1.0百万トン下方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

小麦の作付けはほぼ終了した。アルゼンチンにおける小麦の生産量の約半分を占めるブエノスアイレス州では適切な降雨があるが、その他の地域では乾燥が続いており、小麦の生産に影響を与え始めている。引き続き天候への注視が必要である。

### 【貿易情報】

2008年4月から輸出登録手続きの再開を発表したが、輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等がストライキを実施。その後、同制度の関連法案は廃案となった。

## ケ ウクライナ

### 【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことなどから、前年度より8.1百万トン増加（58.3%）し、22.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（2.3%）し、13.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.4百万トン増加（672.7%）し、8.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（23.8%）し2.1百万トンと積み増しされるものの、期末在庫率は9.6%（2.4ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積が洪水の影響を受け下方修正されたものの、概して好天に恵まれていることから単収が上方修正され、生産量が1.0百万トン上方修正された。輸出量も、生産量増大等の影響から、1.0百万トン上方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの冬小麦の収穫は、降雨によって作業が遅れが出ている地域もあるが、おおむね順調に進んでいる。ウクライナでは、7月23日～26日に発生した雷雨等により洪水が発生した。小麦にも一部地域で被害があるものの、国全体の生産量には大きな影響はない模様である。

### 【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

## （世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.0%）

表－9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	15.2	16.0	13.5 (13.0)	▲ 1.0	▲ 15.6	
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-	0.9	
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
輸出量	10.5	10.0	8.5 (8.6)	▲ 1.0	▲ 15.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	0.0	
期末在庫量	0.3	0.9	0.4 (0.5)	-	▲ 53.4	
期末在庫率	2.0%	5.7%	2.9% (3.8%)	0.2	▲ 2.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.29	5.68	4.70 (…)	▲ 0.40	▲ 17.3	
単収(t/ha)	2.88	2.82	2.87 (…)	0.03	1.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」

## （世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.0%）

表－10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.0	13.9	22.0 (21.5)	1.0	58.3	
消費量	11.7	12.9	13.2 (…)	-	2.3	
うち飼料用	2.1	3.1	3.2 (…)	-	3.2	
輸出量	3.4	1.1	8.5 (7.0)	1.0	672.7	
輸入量	0.1	0.4	0.1 (0.1)	-	▲ 71.4	
期末在庫量	1.4	1.7	2.1 (0.0)	-	23.8	
期末在庫率	9.5%	12.0%	9.6% (…)	▲ 0.5	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	6.70 (…)	▲ 0.10	12.6	
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.28 (…)	0.19	40.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」